

東京D地区会開催

平成24年2月14日、八重洲富士屋ホテルにおいて、東京D地区会（代表幹事：古道義成、NECソフト(株)代表取締役 執行役員社長）が50名の参加を得て開催された。

冒頭、平成23・24年度の東京D地区会代表幹事に就任された古道代表幹事から、昨年は、3月の大震災、原発事故・電力問題、ユーロ不安と急激な円高、タイの大洪水など非常にインパクトのある出来事が続いたが、当業界としてはこれらの影響を最小限に抑え頑張ったのではないかと。昨年、すべて悪いところが出尽くしたので、今年は発展するだけである。本日の会議が会員企業の発展の一助になれば幸いである旨の挨拶があった。

経済産業省商務情報政策局情報処理振興課の堀江大地氏から、融合新産業の創出策を始めとする最近の情報政策の概要とともに、分厚い中間層を支えてきた製造業等の急速な縮小という産業構造の変化への対応が必要であること、ITの利活用による知識産業化とそれを担うIT産業の成長がこの変革の鍵を握ることになること等について説明があった。

JISA河野副会長・専務理事から、最近の経済・業界動向(JISA基本統計2011、DI調査、特サビ動態統計等)の説明の後、JISA Awards2012の受賞者、CO2削減自主行動計画、電力需給対策、集团的消費者被害回復に係る訴訟制度、社会保障・税番号制度等最近のJISA活動状況に関する報告があった。

休憩をはさみ、成井弦氏（LPI-Japan 理事長）による「オープンソースが生み出すビジネスモデル」と題しての講演が行われた。知的所有権を持たずオープンにすることでビジネスの可能性を拓けるオープンムーブメントの潮流やオープンソースの開発に貢献し、貢献の競争に打ち勝つことの重要性などについて、参加者の共感を大いに得る講演となった。

（菊池）